

購入特典その1 『IPOセカンダリー投資のグレートフィルター売買ロジック』の解説

この資料を作成している2021年2月7日現在、
IPO銘柄816件をグレートフィルター検索すると以下の結果になります。

購入特典その1 『IPOセカンダリー投資のグレートフィルター売買ロジック』

年度	トレード回数	1トレードあたりの損益	合計リターン
2021年	934回	-0.14%	-130.76%
2020年	782回	0.66%	516.12%
2019年	679回	0.48%	325.92%
2018年	774回	0.58%	448.92%
2017年	771回	0.50%	385.50%
2016年	650回	0.50%	324.76%
2015年	790回	0.22%	173.85%
2014年	607回	0.51%	309.57%
2013年	416回	0.60%	249.60%
2012年	280回	0.88%	246.40%
2011年	190回	0.58%	110.20%

1日の出来高10万株以上で上場後50営業日まで計測

検索結果816件⇒エントリー回数は合計で
6873回、この期間の合計損益はプラス
2955.29%です。1トレードあたり0.43%
とプラスの期待値です。

2021年はマザーズ指数が下がり、IPO銘柄も軒並み下落した年でした。

それ以外の年はプラスとなっており、マザーズ指数が底を打てば再び勝てるようになると思われます。

このロジックの根幹はザラバの下落とそのリバウンドにあります。

ロジックを理解するにあたり、IPO銘柄特有のザラバの暴落のメカニズムを知る必要があります。

早速、売買ロジックを解説します。

IPO銘柄の特徴⇒ザラバは売られやすい傾向がある(前日陽線だと特に弱い)

前日陽線
マイナス



前日陰線
マイナス



ザラバ
マイナス



特典2
利益を最大化
させる方法



陽線1%	陽線2%	陰線1%	陰線2%	すべて	下降トレンド買い	下落トレンド売り
-0.41%	-0.53%	-0.28%	-0.32%	-0.28%	0.08%	-0.17%
2.13%	3.83%	-0.90%	-1.33%	-0.64%	1.02%	5.10%
1.96%	1.46%	-0.22%	-0.96%	0.01%	-1.14%	
0.91%	0.07%	0.30%	0.54%	0.41%	-0.31%	
1.11%	4.29%	-0.71%	-0.95%	-0.05%	-0.38%	-1.07%
-0.45%	0.12%	-0.44%	0.40%	-0.28%	0.44%	-2.90%
-0.16%	-0.42%	0.15%	0.11%	0.08%	1.51%	-0.05%
-2.67%	-3.11%	-0.84%	-0.59%	-0.68%	1.11%	-3.97%
0.12%	0.30%	-0.62%	-0.32%	-0.29%	0.76%	
-0.45%	-0.29%	0.12%	0.63%	0.18%		
-1.01%	-1.93%	0.22%	0.31%	-0.18%	4.98%	
-0.97%	-0.40%	0.71%	0.79%	-0.02%	-0.27%	-1.06%
-1.21%	0.25%	0.13%	-0.71%	-1.06%	0.09%	0.06%
-2.80%	-2.96%	-0.46%	-1.28%	-1.28%	-1.53%	-6.79%
2.26%	1.51%	-1.00%	-0.64%	-0.12%	-0.76%	3.73%
-0.41%	-0.09%	-0.04%	-0.04%	0.10%	1.02%	-2.64%
-1.11%	-1.34%	-1.17%	-1.49%	-0.41%	-1.13%	0.41%
1.04%	-0.42%	0.65%	0.50%	0.76%	2.81%	-2.65%
1.07%	1.22%	1.35%	1.36%	0.77%	3.63%	2.08%
-0.27%	-0.56%	-1.22%	-1.77%	-0.38%	-0.96%	2.13%

IPO銘柄は前日に陽線が出ると翌日のザラバは陰線になりやすい

陽線で引けた銘柄は翌日陰線になる傾向があります。

なぜこのような結果になるのでしょうか？

前日陰線で引けた銘柄も、翌日売られています。

IPO銘柄は下落する運命にあるのでしょうか？

IPO銘柄の上場後の株価推移を調べても、下がり続けるということはありませんでした。

IPO銘柄だからと言って、長期的に売られるかというとはそうではない。

では、ザラバに下げた分はいつ上がるのか？

その答えは『引け⇒翌日寄り』です。

つまり、ザラバは下げて翌日ギャップアップする傾向があるということです。

単純に下げた銘柄を買ってもダメです。陰線で引けた銘柄はギャップアップしにくいです。

出来高は 影響なし ストップ高は 除外する ストップ高も 含めての陽線 前日陰線 1%と2%

百越全て	出来高上昇	ストップ高除く	陽線1%	陽線2%	陰線1%	陰線2%
0.28%	0.35%	0.38%	0.53%	0.55%	0.09%	0.06%
-0.24%	0.55%	-2.67%	-2.64%	-3.71%	0.28%	-0.01%
0.55%	0.51%	0.97%	0.73%	1.33%	0.27%	0.60%
0.07%	0.19%	-0.20%	-0.20%	-0.12%	-0.35%	-1.82%
0.27%	0.25%	2.35%	1.84%	1.59%	0.51%	1.81%
0.13%	0.16%	-0.91%	-1.14%	-1.14%	0.12%	0.64%
-0.34%	-0.40%	-0.16%	-0.16%	-0.16%	1.25%	-0.37%
0.40%	0.56%	1.37%	1.37%	1.37%	1.17%	-0.25%
0.23%	0.65%	0.02%	0.02%	0.02%	0.02%	2.60%
0.35%	0.11%	0.41%	0.41%	0.41%	0.36%	0.15%
-0.01%	-0.11%	-0.05%	-0.05%	-0.05%	-0.27%	-0.68%
0.57%	0.69%	1.59%	2.35%	2.24%	0.20%	0.02%
-0.57%	-0.32%	-2.11%	-1.84%	-2.37%	-0.45%	-0.21%
0.00%	-0.50%	-0.42%	-0.32%	0.56%	0.02%	0.42%
-0.68%	-0.56%	0.46%	0.70%	0.62%	-1.25%	-1.83%
0.74%	1.01%	1.66%	2.11%	3.11%	-0.24%	-0.37%
1.34%	0.07%	-0.40%	1.01%	1.35%	-0.34%	-0.50%
1.48%	2.31%	0.31%	1.48%	1.17%	2.51%	5.30%
0.26%	0.23%	0.40%	0.44%	0.88%	0.05%	0.10%
0.18%	0.50%	1.13%	0.92%	1.37%	-0.24%	-0.24%

黄色の枠の数字は
ギャップアップです

ザラバが陽線で引ける銘柄を引成で買って翌日始値で売却すると利益が出やすい。(ストップ高銘柄は買えないので除外します)

上の表から、以下の条件で売買を行えば勝ちやすいとの結論に達しました。

- IPO銘柄のうち、陽線で引けそうな銘柄を引け成りで買う
- 翌日始値で売る
- ストップ高の銘柄が買えた場合、大きく利益が取れるのでストップ高比例配分狙いも有効(成績には入れていません)

データからはザラバに空売りで仕掛けるという戦略も考えられますが、IPO銘柄をいちにち信用で売ると特別空売り料が発生することがあります。せっかく利益が出ても特別空売り料で相殺されることからオススメは出来ません。

また、値動きの荒いIPO銘柄は連続ストップ高の可能性も高く、一発退場のリスクがあるので資金のある人以外は空売りは避けるようにして下さい。

成り行きで大量の株数を注文すると、自分の売買だけで数ティック動いて約定します。資金の多い人は、引けまでに少しずつ買い集めて、翌日寄ってから少しずつ手仕舞う方がいいです。

出来高の少ない銘柄は、板がスカスカで不利な価格で約定することが考えられます。出来高の多い少ないはデータ上影響は無いので、なるべく売買代金の多い人気IPO銘柄をトレードすることをオススメします。

なぜこの様な傾向になるのか？その根拠を予想してみました。

デイトレの神様と言われたあの投資家のテストさんが、デイトレ時代に唯一負け越したトレードがIPOセカンダリー銘柄だったとYouTubeで本人が語っていました。『IPOで勝てなかった理由は、期待値の高いところ(本来なら勝率は6割になる)でエントリーしても突然予測できない大量の売りが降ってくるのがIPO銘柄では頻繁に起こる。』と語っていました。

『この売りは大株主による売りであり、予測は出来ない。』と理由も語っていました。

ロックアップとは、大株主に対して「上場後一定期間を過ぎるか、または株価が一定額に達するまで、持ち株は売却できない」とする契約制度のことです。

ロックアップ解除の条件や時期は調べればわかるのですが、問題はロックアップが解除されたからといって大株主が売ってくるとは限らない。また、いつ売ってくるかも予想できないという点です。

ザラバ中は大株主による大量の売りがあると値を崩され一時的に株価は下落するという事です。

結論:陽線で引けそうな銘柄(強い買いがあった)を引け間隙で買うと、翌日はギャップアップしやすい傾向がある。ただし、ザラバ中は下がりやすいので早めに決済する。

以上が本ロジックの詳細になります。

- 本サービスのデータ及び予想について、正当性を保証するものではありません。
- 本サービスを利用して損失を被った場合でも一切の責任を負いません。
- 投資の決定は、自己判断・自己責任でお願いします。
- Excelデータの提供は著作権の関係からできません。
- 株価の時系列データはヤフーファイナンス等でご自身で取得してください。